

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2023年11月14日
【四半期会計期間】	第100期第2四半期(自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)
【会社名】	中部鋼板株式会社
【英訳名】	Chubu Steel Plate Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 重松 久美男
【本店の所在の場所】	名古屋市中川区小碓通五丁目1番地
【電話番号】	052(661)0180
【事務連絡者氏名】	取締役 総務部長 松田 将
【最寄りの連絡場所】	名古屋市中川区小碓通五丁目1番地
【電話番号】	052(661)0180
【事務連絡者氏名】	取締役 総務部長 松田 将
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 株式会社名古屋証券取引所 (名古屋市中区栄三丁目8番20号)

## 第一部 【企業情報】

### 第 1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第99期 第 2 四半期 連結累計期間	第100期 第 2 四半期 連結累計期間	第99期
会計期間	自 2022年 4 月 1 日 至 2022年 9 月30日	自 2023年 4 月 1 日 至 2023年 9 月30日	自 2022年 4 月 1 日 至 2023年 3 月31日
売上高 (百万円)	39,297	32,709	76,320
経常利益 (百万円)	5,630	4,363	12,328
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (百万円)	3,881	3,044	8,577
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	3,870	3,418	9,024
純資産額 (百万円)	69,080	74,825	73,720
総資産額 (百万円)	80,331	85,683	88,095
1 株当たり四半期(当期)純利益 (円)	140.54	110.11	310.53
潜在株式調整後 1 株当たり 四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	85.2	86.5	82.9
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	1,358	1,133	10,133
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	1,983	2,594	9,084
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	856	2,377	1,953
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (百万円)	15,798	8,568	12,406

回次	第99期 第 2 四半期 連結会計期間	第100期 第 2 四半期 連結会計期間
会計期間	自 2022年 7 月 1 日 至 2022年 9 月30日	自 2023年 7 月 1 日 至 2023年 9 月30日
1 株当たり四半期純利益 (円)	75.54	21.66

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。  
2 潜在株式調整後 1 株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第 2 四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生、または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、全体として緩やかな回復基調で推移したものの、国際的な物価上昇と各国金融政策の動向、中国経済の減速による影響等、景気の先行きは依然として不透明な状況となっております。

国内鉄鋼需要につきましては、自動車向けが回復基調であるものの、主需要先である産業機械向け需要は、設備投資意欲減退の影響で伸び悩み、建築向け需要も、人手不足による工期の遅れが引き続き見られるなど、低調に推移しました。

このような環境のもと、当社グループは本期が最終年度となる21中期経営計画の達成に向けて、諸施策の着実な実行と積極的な営業活動に努めてまいりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は327億9百万円と前年同期比65億8千8百万円の減収、経常利益は43億6千3百万円と前年同期比12億6千6百万円の減益、親会社株主に帰属する四半期純利益は30億4千4百万円と前年同期比8億3千7百万円の減益となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### （鉄鋼関連事業）

鉄鋼関連事業につきましては、需要の落ち込みにより主要製品である厚板の販売数量が減少しました。コストについては、主原料である鉄スクラップ価格が前年同期を下回って推移したものの、電力を中心としたエネルギー価格の上昇、来年秋稼働予定の新電気炉を含む大型設備投資の工事に伴う一時操業休止等により上昇しました。その結果、売上高は313億4百万円と前年同期比64億5千4百万円の減収、セグメント利益(営業利益)は42億4千4百万円と前年同期比10億7千4百万円の減益となりました。

#### （レンタル事業）

レンタル事業につきましては、厨房用グリスフィルターのレンタル枚数は増加したものの、広告看板の受注が減少したため、売上高は3億3千7百万円と前年同期比1百万円の減収、セグメント利益(営業利益)は3千2百万円と前年同期比0百万円の減益となりました。

#### （物流事業）

物流事業につきましては、需要先の生産活動の回復により危険物倉庫の取扱量が増加したことから、売上高は2億8千7百万円と前年同期比1千2百万円の増収、セグメント利益(営業利益)は1億円と前年同期比1千2百万円の増益となりました。

#### （エンジニアリング事業）

エンジニアリング事業につきましては、金属加工の受注減少等により、売上高は7億7千9百万円と前年同期比1億4千5百万円の減収、セグメント利益(営業利益)は1千7百万円と前年同期比7千6百万円の減益となりました。

財政状態は次のとおりであります。

(資産の部)

流動資産は554億5百万円で、前連結会計年度末より51億6千8百万円の減少となりました。その主な要因は、受取手形及び売掛金が増加したものの、仕掛品、有価証券、現金及び預金が増加したことによるものです。

固定資産は302億7千7百万円で、前連結会計年度末より27億5千6百万円の増加となりました。その主な要因は、投資有価証券が増加したこと、また有形固定資産において減価償却は進んだものの、機械、運搬具及び工具器具備品、建設仮勘定が増加したことによるものです。

(負債の部)

流動負債は97億9千7百万円で、前連結会計年度末より35億3千万円の減少となりました。その主な要因は、未払金が増加したものの、支払手形及び買掛金、未払法人税等が増加したことによるものです。

固定負債は10億6千万円で、前連結会計年度末より1千2百万円の増加となりました。

(純資産の部)

純資産は748億2千5百万円で、前連結会計年度末より11億5百万円の増加となりました。その主な要因は、配当金の支払があったものの、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上に伴い利益剰余金が増加したことによるものです。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は85億6千8百万円となり、前連結会計年度末より38億3千7百万円の減少となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは11億3千3百万円の収入(前年同四半期連結累計期間は13億5千8百万円の収入)となりました。

主として、売上債権の増加による支出30億5千2百万円、法人税等の支払による支出29億1千3百万円などの支出があったものの、税金等調整前四半期純利益44億4千2百万円、棚卸資産の減少による収入43億3千万円などの収入があったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは25億9千4百万円の支出(前年同四半期連結累計期間は19億8千3百万円の収入)となりました。

主として、定期預金の払戻による収入75億円、有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入39億1百万円などの収入があったものの、有価証券の取得による支出70億円、定期預金の預入による支出35億円、投資有価証券の取得による支出19億7百万円などの支出があったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは23億7千7百万円の支出(前年同四半期連結累計期間は8億5千6百万円の支出)となりました。

主として、配当金の支払23億1千5百万円などの支出があったことによるものです。

(3) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は18百万円であります。なお、当第2四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(4) 生産、受注及び販売の状況

当第2四半期連結累計期間において、鉄鋼関連事業の受注高及び生産高が著しく変動いたしました。受注高は、主に電気炉更新に向けた工事に伴う一時操業休止により生産量が減少したことで、前年同期を下回りました。また、生産量の減少に加え、主原料である鉄スクラップ価格が前年同期を下回って推移したことにより、生産高も前年同期を下回りました。

3 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	99,600,000
計	99,600,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2023年11月14日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	30,200,000	30,200,000	東京証券取引所 プライム市場 名古屋証券取引所 プレミアム市場	単元株式数は100株であります。
計	30,200,000	30,200,000		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数(株)	発行済株式 総数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減額 (百万円)	資本準備金残高 (百万円)
2023年8月18日(注)		30,200,000		5,907	3,468	1,200

(注) 会社法第448条第1項の規定に基づき、資本準備金を減少し、その他資本剰余金へ振り替えたものであります。

(5) 【大株主の状況】

2023年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
中部鋼鉄取引先持株会	名古屋市中川区小碓通五丁目1番地	2,863	10.35
三井物産スチール株式会社	東京都港区赤坂五丁目3番1号	2,544	9.20
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	1,836	6.64
光通信株式会社	東京都豊島区西池袋一丁目4番10号	1,367	4.94
日鉄物産株式会社	東京都中央区日本橋二丁目7番1号	1,260	4.55
阪和興業株式会社	東京都中央区築地一丁目13番1号	956	3.45
岡谷鋼機株式会社	名古屋市中区栄二丁目4番18号	912	3.29
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	800	2.89
株式会社十六銀行	岐阜市神田町八丁目26番地	630	2.27
伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社	東京都中央区日本橋一丁目4番1号	545	1.97
計		13,713	49.59

(注) 発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合は、小数点第3位以下を切り捨てております。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,548,700		
完全議決権株式(その他)	普通株式 27,641,800	276,418	
単元未満株式	普通株式 9,500		
発行済株式総数	30,200,000		
総株主の議決権		276,418	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式86株が含まれております。

【自己株式等】

2023年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数(株)	他人名義 所有株式数(株)	所有株式数 の合計(株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 中部鋼鉄株式会社	名古屋市中川区小碓通五丁目1番地	2,548,700		2,548,700	8.43
計		2,548,700		2,548,700	8.43

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2023年7月1日から2023年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2023年4月1日から2023年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,906	9,568
受取手形及び売掛金	18,395	1 20,900
電子記録債権	3,167	1 3,714
有価証券	14,597	12,093
商品及び製品	4,427	3,485
仕掛品	5,341	2,205
原材料及び貯蔵品	3,536	3,284
その他	202	153
貸倒引当金	0	0
流動資産合計	60,574	55,405
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,614	6,519
機械、運搬具及び工具器具備品（純額）	8,840	9,637
土地	2,154	2,154
建設仮勘定	1,414	2,192
その他（純額）	3	3
有形固定資産合計	19,028	20,507
無形固定資産	258	225
投資その他の資産		
投資有価証券	6,966	8,544
退職給付に係る資産	315	271
繰延税金資産	467	257
その他	488	473
貸倒引当金	2	2
投資その他の資産合計	8,234	9,545
固定資産合計	27,521	30,277
資産合計	88,095	85,683



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年 3 月31日)	当第 2 四半期連結会計期間 (2023年 9 月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,194	1 4,429
電子記録債務	145	
未払金	1,236	2,437
未払法人税等	3,051	1,373
未払消費税等	691	622
賞与引当金	524	526
役員賞与引当金	15	6
その他	466	400
流動負債合計	13,327	9,797
固定負債		
役員退職慰労引当金	15	17
退職給付に係る負債	916	933
その他	116	109
固定負債合計	1,047	1,060
負債合計	14,375	10,858
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,907	5,907
資本剰余金	4,706	4,713
利益剰余金	62,481	63,203
自己株式	1,341	1,338
株主資本合計	71,753	72,485
その他の包括利益累計額		
その他の有価証券評価差額金	1,285	1,635
退職給付に係る調整累計額	35	33
その他の包括利益累計額合計	1,320	1,668
非支配株主持分	645	671
純資産合計	73,720	74,825
負債純資産合計	88,095	85,683

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	39,297	32,709
売上原価	30,974	25,753
売上総利益	8,323	6,955
販売費及び一般管理費		
運賃諸掛	1,559	1,305
役員報酬及び給料手当	466	462
賞与引当金繰入額	155	182
退職給付費用	49	41
その他	514	539
販売費及び一般管理費合計	2,744	2,530
営業利益	5,578	4,425
営業外収益		
受取利息	4	8
受取配当金	61	68
受取賃貸料	35	36
雑収入	23	27
営業外収益合計	125	140
営業外費用		
支払利息	3	3
固定資産処分損	49	182
為替差損		0
雑損失	20	15
営業外費用合計	73	201
経常利益	5,630	4,363
特別利益		
投資有価証券売却益		79
特別利益合計		79
特別損失		
投資有価証券売却損		0
特別損失合計		0
税金等調整前四半期純利益	5,630	4,442
法人税等	1,726	1,372
四半期純利益	3,903	3,070
非支配株主に帰属する四半期純利益	22	26
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,881	3,044

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	3,903	3,070
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	40	349
退職給付に係る調整額	6	1
その他の包括利益合計	33	347
四半期包括利益	3,870	3,418
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,847	3,392
非支配株主に係る四半期包括利益	22	26

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	5,630	4,442
減価償却費	1,175	1,075
投資有価証券売却損益（は益）		79
固定資産処分損益（は益）	49	182
引当金の増減額（は減少）	16	4
退職給付に係る負債の増減額（は減少）	43	15
受取利息及び受取配当金	66	76
支払利息	3	3
売上債権の増減額（は増加）	471	3,052
棚卸資産の増減額（は増加）	2,630	4,330
仕入債務の増減額（は減少）	686	2,910
未払消費税等の増減額（は減少）	128	69
その他	42	114
小計	2,771	3,972
利息及び配当金の受取額	67	77
利息の支払額	3	3
法人税等の支払額	1,487	2,913
法人税等の還付額	10	
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,358	1,133
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	2,500	3,500
定期預金の払戻による収入	2,500	7,500
有形固定資産の取得による支出	854	1,516
有形固定資産の売却による収入	0	0
有価証券の取得による支出	1,500	7,000
投資有価証券の取得による支出	505	1,907
有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入	4,900	3,901
その他	57	71
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,983	2,594
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
自己株式の取得による支出		0
配当金の支払額	855	2,315
非支配株主への配当金の支払額	0	0
その他	0	60
財務活動によるキャッシュ・フロー	856	2,377
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	2,486	3,837
現金及び現金同等物の期首残高	13,311	12,406
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 15,798	1 8,568

## 【注記事項】

## (四半期連結貸借対照表関係)

- 1 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。
- なお、当第2四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形等が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
受取手形	百万円	249百万円
電子記録債権		700
支払手形		105

## (四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
現金及び預金勘定	10,298百万円	9,568百万円
有価証券勘定	9,400	12,093
預入期間が3か月を超える定期預金	1,500	3,500
償還期間が3か月を超える債券等	2,400	9,593
現金及び現金同等物	15,798百万円	8,568百万円

## (株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

## 1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月23日 定時株主総会	普通株式	856	31	2022年3月31日	2022年6月24日	利益剰余金

## 2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年11月1日 取締役会	普通株式	552	20	2022年9月30日	2022年12月1日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

## 1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年6月22日 定時株主総会	普通株式	2,322	84	2023年3月31日	2023年6月23日	利益剰余金

(注) 1株当たり配当額には東京証券取引所プライム市場上場記念配当10円が含まれております。

## 2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年11月1日 取締役会	普通株式	829	30	2023年9月30日	2023年12月1日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	鉄鋼関連事業	レンタル事業	物流事業	エンジニアリング事業	
売上高					
顧客との契約から生じる収益	37,758	339	274	924	39,297
その他の収益					
(1)外部顧客に対する売上高	37,758	339	274	924	39,297
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	35	3	128	238	405
計	37,794	342	403	1,163	39,703
セグメント利益	5,319	33	88	94	5,535

2 報告セグメントごとの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する情報)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	5,535
セグメント間取引消去	43
四半期連結損益計算書の営業利益	5,578

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	鉄鋼関連事業	レンタル事業	物流事業	エンジニアリング事業	
売上高					
顧客との契約から生じる収益	31,304	337	287	779	32,709
その他の収益					
(1)外部顧客に対する売上高	31,304	337	287	779	32,709
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	0	3	121	278	404
計	31,304	341	409	1,058	33,114
セグメント利益	4,244	32	100	17	4,396

2 報告セグメントごとの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する情報)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	4,396
セグメント間取引消去	28
四半期連結損益計算書の営業利益	4,425

## (収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
1株当たり四半期純利益	140円54銭	110円11銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	3,881	3,044
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	3,881	3,044
普通株式の期中平均株式数(株)	27,618,052	27,648,372

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## (重要な後発事象)

当社は、2023年11月1日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式を取得することを決議いたしました。

## (1)自己株式の取得を行う理由

株主還元の実と資本効率の向上を図るとともに、経営環境の変化に応じた機動的な資本政策の遂行を目的として行うものです。

## (2)取得に係る事項の内容

取得する株式の種類	当社普通株式
取得する株式の総数	760,000株(上限) (自己株式を除く発行済株式総数に対する割合2.75%)
株式の取得価額の総額	1,300百万円(上限)
取得する期間	2023年11月2日から2024年4月30日まで
取得方法	東京証券取引所における市場買付

## 2【その他】

第100期(2023年4月1日から2024年3月31日まで)中間配当について、2023年11月1日開催の取締役会において、2023年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	829百万円
1株当たりの金額	30円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	2023年12月1日

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年11月14日

中部鋼鉄株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

名古屋事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 楠 元 宏

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 川 口 真 樹

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている中部鋼鉄株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、中部鋼鉄株式会社及び連結子会社の2023年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。